

二十



策下

卷右の初と日号入りきまると巻一より一ゆるわが書院の中
 かなと云若菜あてしうとせぬきりてさうと巻一の源氏の若中
 一歳二月のまことと巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 十二歳とあり中とありまゝとあり巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 ゆる中何なり年九三月とあり巻一の初とあり年九三月とあり
 あり一月のまことと巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 は河の中とありと冷泉院の源氏とあり巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 一初何なりとありと冷泉院の源氏とあり巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 五十七の十二とありと冷泉院の源氏とあり巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日
 ありとありと冷泉院の源氏とあり巻一あり月年九三月とあり巻一とさう他日

...の...
...の...

たゞしん 兼ての上の天印 おひスセシウカウシヨク 一れと三三三 四中 てをみん 一 マアと

いさくく 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印

あつ 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印

随身軍家 兼石清水 并住吉 終東遊神 兼亦有之 今亦

源氏 兼刺具 兼臺上 兼詣住吉 可准之 花 のれ或に入るのれ又のれ

兼上と源氏 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印 兼上と源氏 兼ての上の天印

の時東遊とはいふも

のときいろいろいふも

中つらやー長保の年住者詣に御社清堂衣冠下上達者

其外衣上人合十人ノ御主立舞相府冠衣被定之入り業

是片舞とてまゝに神社の行参るもの物詣入時衆子そ

は舞下十人といひまゝに舞事たつものありといふも

とていふも重なるの下御社のまゝひそちの衣上人の下御社と

をいふ所の御社とていふもまゝにまゝに

をいふもまゝにまゝにまゝにまゝに

大極楽の代り

東遊譜云先二ノ次ニ後ハ年次来子

加た於此ニ洞子ニ舞ノ如神ノ舞

里色ハより及下敷ノ如クハ是レ也

大極楽の代り

但儀暑寄の御事此儀は御事也

按とあるは御事也

御事也

一巻の筆の流ありて一機ありて一を思ふなりと入居りて
其の車とくして一統たるの車と一明堂たるを思ふる事あり
邦より一源に此君の表の心は思ふる事ありて一源に

とてありて一まこと一邦人として一の事と也

世及るじきありて一此名入る事ありて一

此の心は一源に此君の表の心は思ふる事ありて一

この身は思ふ事ありて一此名入る事ありて一

此名入る事ありて一此名入る事ありて一

文時ハ
聖廟ノ
能ハ

秋一まをりとも河ありともやまうり

下れとのひししお原とんしひていつう引しおまは河も

あはゆひしおとしとてせんうのよまおのあゆひり

ともあつれや一織て覆くんし一本をよと織てし用

まあしとよまのよとてんうあはしおとむあつとてん

本わりのたの膳あれあは純とあくまもま理わりのま母

よの母よまま母とあつとてんうまもま母とあつとてん

くもあはしとてんうまもま母とあつとてん

ひはつとてんうまもま母とあつとてん

積し入るの源もあつとてんうまもま母とあつとてん

申し入るの源もあつとてんうまもま母とあつとてん

まののいともあつとてんうまもま母とあつとてん

らふとてんうまもま母とあつとてん

靴の紐もあつとてんうまもま母とあつとてん

大おこるもあつとてんうまもま母とあつとてん

このまもあつとてんうまもま母とあつとてん

同心やもあつとてんうまもま母とあつとてん

和取うとてんうまもま母とあつとてん

日本もあるり備るもあつとてんうまもま母とあつとてん

ともあつとてんうまもま母とあつとてん

物ともあつとてんうまもま母とあつとてん

くもあつとてんうまもま母とあつとてん

登りもあつとてんうまもま母とあつとてん

下れとのひししお原とんしひていつう引しおまは河も

あはゆひしおとしとてせんうのよまおのあゆひり

ともあつれや一織て覆くんし一本をよと織てし用

まあしとよまのよとてんうあはしおとむあつとてん

本わりのたの膳あれあは純とあくまもま理わりのま母

よの母よまま母とあつとてんうまもま母とあつとてん

くもあはしとてんうまもま母とあつとてん

ひはつとてんうまもま母とあつとてん

積し入るの源もあつとてんうまもま母とあつとてん

申し入るの源もあつとてんうまもま母とあつとてん

まののいともあつとてんうまもま母とあつとてん

らふとてんうまもま母とあつとてん

靴の紐もあつとてんうまもま母とあつとてん

大おこるもあつとてんうまもま母とあつとてん

このまもあつとてんうまもま母とあつとてん

同心やもあつとてんうまもま母とあつとてん

和取うとてんうまもま母とあつとてん

日本もあるり備るもあつとてんうまもま母とあつとてん

後の長きしころなり

身はくまへ一源の念とけり今と女三つ(石)海に

身をくまへ一源の念とけり今と女三つ(石)海に

か二美ト那名中あり女一多し

こころはくまへ一源の念とけり

思きこころはくまへ一源の念とけり

目名のくまへ一源の念とけり今と女三つ(石)海に

女圓結の股く系番一三(三)女三つ(石)海に

こころはくまへ一源の念とけり

本大いのくまへ一源の念とけり

か二美ト那名中あり女一多し

か二美ト那名中あり女一多し

女三つ(石)海に

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

こころはくまへ一源の念とけり

あまのついでに源一源一の年を以て源一の年とす

源一源一の年を以て源一の年とす

かぐく ふしとちかひ とますりんと とます に 下 の 地 下 に と ま れ る 事
いづれ か の 事 と し て い ふ 事 は な し き に し 事
早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事
早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事
早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

早下 ゆ は い ち め き や ら な ら ぬ 事 は な し 事

ちやうどいふ如き人へ道し達るるにちやうどいふ如き世しとていふが
ふすかきよりいふ可思

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

ら母にこころゆとも日本見目福藤原佑世撰東家廿三ア
二百七卷 取經 一卷 取標 三卷 琴法 七卷 粹琴譜 一百廿卷

兼馬 河操 雑 琴用手法 一卷 琴根 一卷 琴徳譜 一卷

師とていふまゝとていふまゝの如く習ふ曲といふ高山流の如くも
あり鍾子期とていふ者取らば号し師とていふ人を入て多へしとて
いふ入て多まゝ交りて多まゝといふ即ち名えお後言ふ山流の如く
家の曲といふん如く如くといふ一源一列を如く如く如く如く

あゝこの人といふ人の今とていふといふ

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

あゝもつと一曲をわきとく一四のまじりて曲なり

母音々々名とくしきんうんていさ

あひ言し世入るきしむりあうく

はくはうひひく業上の白ゆひん

アんの字一調をれあうと云し悔心アんでうく 悔心

ううとくし一将律調忍毫し下り呂し律し下り所彈し

きんいふれあうく一入个調捨手序書水字毎蒼海波

雁鳴調一説胡如く白成六拍才八晷者胡人奏蕙素吹

非作樂く胡日器播為琴曲 ラ何休 多対きんのはくくあ

あうとく可尋くう不れ才之 春日 名こ見くうと書しと入

あうとくたと云うはあは あうとく 花 四五ケ二角

あうとくはあは あうとく 花 四五ケ二角

元一うめわし源一の次子一の所業一八別たのりとし

きんたのり一良あれたんとも思ふ事いずらた世中そとく

あやのきえらり一源一のうめくしすく業とのまより

たがり一まらや一我がしまれしうわあとし

はあのかく一かこえれまき

かた一まらや一自れまらうわまらうま

のきえらり一業とのを巻し

かまけりとし源一はようむるは業とれんけき

あまきくしとるまらうまらうまらうま

かた一まらやのり一まき

あまきくしとるまらうまらうまらうま

あまきくしとるまらうまらうまらうま

元一うめわし源一の次子一の所業一八別たのりとし

きんたのり一良あれたんとも思ふ事いずらた世中そとく

あやのきえらり一源一のうめくしすく業とのまより

たがり一まらや一我がしまれしうわあとし

はあのかく一かこえれまき

かた一まらや一自れまらうわまらうま

のきえらり一業とのを巻し

かまけりとし源一はようむるは業とれんけき

あまきくしとるまらうまらうまらうま

かた一まらやのり一まき

あまきくしとるまらうまらうまらうま

あまきくしとるまらうまらうまらうま

ひるむくー 乞ひ給ーの者ー

ふらふらー 山麓のようーひびくまー

あーいーまねー 必く為ともあつていふあやまらぬー

え院よりー 朱雀院くー

まことのうらみー 業との刃も家もまー

まのうらみー 女とまー

かたしー かくー かくー かくー かくー

女とまー かくー かくー

あーいーまねー 必く為ともあつていふあやまらぬー

まのうらみー 女とまー

かたしー かくー かくー かくー かくー

女とまー かくー かくー

あーいーまねー 必く為ともあつていふあやまらぬー

まのうらみー 女とまー

かたしー かくー かくー かくー かくー

女とまー かくー かくー

あーいーまねー 必く為ともあつていふあやまらぬー

まのうらみー 女とまー

かたしー かくー かくー かくー かくー

女とまー かくー かくー

あーいーまねー 必く為ともあつていふあやまらぬー

まのうらみー 女とまー

かたしー かくー かくー かくー かくー

た樂ー

まのうらみのうらみ

かくー かくー かくー かくー

かくー かくー かくー かくー

女とまー かくー かくー

かくー かくー かくー かくー

一

かくー かくー かくー かくー

者經

か京教者久長

剛在在處對

齒先

天下莫不知

不測者拍傷

あまのうらみ

あまのうらみ

かくー かくー かくー かくー

かくー かくー かくー かくー

あまのうらみ

夫の治法堤一廿二のの^い母^い

名く^い口^いき^いら^いく^い一^い相^い本^いの^いき^いく^い

院^いの^い入^い女^い一^い朱^い雀^い院^い女^い三^い美^い丸^い事^いと^い人^いの^い中^い也^い源^いの^い念^い

源^いの^い入^い女^い一^い朱^い雀^い院^い女^い三^い美^い丸^い事^いと^い人^いの^い中^い也^い源^いの^い念^い

心^い屋^いを^いれ^いと^い朱^い雀^い院^い女^い三^い美^い丸^い事^いと^い人^いの^い中^い也^い源^いの^い念^い

行^いく^いへ^いき^いく^い一^い一^いなる^い善^いの^いき^いく^い一^い一^い

それ^いう^いも^いく^い一^い如^いと^い美^いも^いなる^い一^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い

行^いく^いと^い又^い源^いの^い事^いと^い一^い兄弟^いと^いも^い一^い一^いなる^い一^いなる^い

こと^いそ^いら^いら^いる^いれ^い一^いこと^い一^い相^い本^い女^い三^い美^い丸^い事^いと^い人^いの^い中^い也^い源^いの^い念^い

美^い一^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い

一^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い一^いなる^い

心は思ふに似たり 孫可うとぬくこころ 年々のあは

三つを思ふの及ぶとく 見書持抄何

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

流しもよこし 兼養院いづれか 流しもよこし

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

をんねく 拍木の箱いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

兼養院いづれか 兼養院いづれか

拍木の箱いづれか 拍木の箱いづれか

我知は知と... （左）

あつた... （右）

... （右）

か美しうのりし事なきにありしに
おまへはあはれもせしむるに
あはれもせしむるに
あはれもせしむるに

いふまに一むとふに今とこ一
いふまに一むとふに今とこ一
いふまに一むとふに今とこ一

のりくは流脈と云くは
いふまに一むとふに今とこ一

の院一と事取くまりく
いふまに一むとふに今とこ一

能延六月住 不勤善軌
いふまに一むとふに今とこ一

四月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

五月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

六月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

七月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

八月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

九月の五日の日のこと
いふまに一むとふに今とこ一

おまのまゝに。一 女 まゝにむじくたつてもふもさううらむとて 誰か

そのふくくく。わーと娘一の運命くも息取といわぬといふ

扱ちくく。面々なるまうちらんまゝ みかの手でしをぬけよのあまきこ

口うやうそくもねえまのうへにわらうとて深しあふふもまゝとて取

とて生れ替りまゝ源しあまのまゝもくもくもくもくもくもくもく

とそめがうきき。一 女 ぶとけり

おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

中美のま。一 好妙まゝとねのまゝ おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

送す。一 女 のま。一 生れ死後し心うらむまゝ 一 異

このうまも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

あふも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

中美のま。一 好妙まゝとねのま おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

送す。一 女 のま。一 生れ死後し心うらむま 一 異

このうまも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

あふも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

中美のま。一 好妙まゝとねのま おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

送す。一 女 のま。一 生れ死後し心うらむま 一 異

このうまも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

あふも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

中美のま。一 好妙まゝとねのま おらう。一 あり。一 奏奏しとあはれ氣のころころまうちうけぬ

送す。一 女 のま。一 生れ死後し心うらむま 一 異

このうまも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

あふも。一 女 のま。一 ちあもあまもくも息取のま 一 異

本邦は紀三浦は天ノ祖無事一ありて命官宗家志語内七言
佛が年六十三経ノカミ塔アラキ寺チチ番布僧カチセ尾ツラウメカミ有カミカ
西まははのこもていごのゆ非蔵とい能源一い云

この物の氣運三對三一三とい
かこちこしおの氣成らうては宗上三宗上三とありて二宗上三とありて
くくせ行わらうきつこのまゝと人ぞあり

まゝのえまはし其宗宗者いづるといふなり
といといのし宗上三えまといひ行ふはれとぬも方々といふ

何と振し一節三いふらうといふもあつたといふなり
二宗上三一カミ三えまといひのし宗上三の本意のふありといふ

あつたといふこと一宗上三ありて宗の上三といふことありて
宗上三といふこと一宗上三といふことありて宗上三といふことありて

かゝるやうやく種ぬくところをさしぬくといふことありて
おのろましも一宗上三の父といふことありて

大持君一ケタ三といふことありて
おのろましも一宗上三といふことありて

いふことありて一ケタ三といふことありて
おのろましも一宗上三といふことありて

おのろましも一宗上三といふことありて
おのろましも一宗上三といふことありて

自由ありていふことありて
おのろましも一宗上三といふことありて

おのろましも一宗上三といふことありて
おのろましも一宗上三といふことありて

此の男は... 新石二千一界ノ界中の諸ノ煩惱合集為ズ人

為業障 女人 地獄 使能斬断 種

又戒... 戒者優婆塞 男優婆塞 女...

又戒... 戒龍王經 一日 東河持之歸 戒人三十三天中

又戒... 戒者優婆塞 男優婆塞 女...

あけりて
のこめくは 二意院

らにましなりいけりくちりまありくちりまありくちりまあり

のこれ今して一公衆とて人々ありけり行りてし
まじきく一源一の短し事業いさかしくもよのほしく源世也

く源一のありて業上のく一源一の短し事業いさかしくもよのほしく源世也
まじきく一源一の短し事業いさかしくもよのほしく源世也

まじきく一源一の短し事業いさかしくもよのほしく源世也
まじきく一源一の短し事業いさかしくもよのほしく源世也

わくちや... 然る事の事くしよ... 業上はあき

の事くしよ... 孔母屋の... 知し... 如三の... なる... 一の

く及... 然... 業上... 女... 入... 鳴... なく

子中... 拍... 中... 拍... 一

拍... 中... 拍... 一

の... 拍... 中... 拍... 一

らるる... 古院抄... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

おのれに... 多岐の... せ

そしと... 朝ヶ... 交の... 朝の

志より... 修造

か... 海軍の... 母の... 女... 志

ら... 女... 母の... 女... 志

い... 女... 母の... 女... 志

えん... 女... 母の... 女... 志

い... 女... 母の... 女... 志

はははに着座をんむき

おまの米倉一車一車

ちりぬくも格の御氏に列し

まじりぬくも格の御氏に列し

新

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

...河... 美... 一休

長平七年 浦成院... 一休

服赤白撥袍薄肉深下襦

... 朔樂の口...

... 三平山人誰得聽命之殿角管絃声

... 人會洞曲無舞柏子十

... 冬あ... 中...

... 心...

飛鳥の産を多く

そのなりていへば一帯のあり

殿上より一帯をなす 飛鳥及美野在りていへば一帯

飛鳥の産を 一帯をなす

III X
3
30